吹上小学校だより　「　夢いっぱい　輝く瞳　光る汗　」　令和４年６月３０日

コスモス

七月
No.４

【知】進んで学びよく考える子　【徳】明るく思いやりのある子　【体】たくましくねばり強い子

「確かな学び」のために

校　長　　清　水　　励

記録的な早さで梅雨が明け、猛暑が続いております。これから始まる夏本番の暑さがどれだけの酷暑になるか心配されます。熱中症にはくれぐれも注意し、生活させてまいりたいと思います。

過日、１，３年生の「交通安全教室」を行いました。鴻巣警察交通課、交通安全協会、鴻巣市役所の方々にお世話になり、道路の安全な渡り方や自転車の正しい乗り方について、丁寧に教えていただきました。子供たちの交通事故、絶対に起きてほしくありません。朝、元気に出かけて行った子供が、声無き姿で戻ってくる…、考えたくもないことです。ですので、私たち大人は、子供たちが交通事故に遭わないようにあらゆる策を講じます。子供たちに交通ルールを教え、ルールを守ることの大切さと意味を伝え、また、通学路での登校見守りを行い…。けれども、残念なことに事故は起きてしまいます。子供たちだけの時に、道路に飛び出してしまうなどして、事故が起きてしまいます。事故の知らせを聞くと**「子供たちに、自分で安全な行動がとれるよう、私たちは、本当の意味で『丁寧』に学ばせているだろうか…。」**と、思ってしまいます。

数年前、フィリピンのいくつかの学校へ行った時のこと。セブ島にある、数千人の児童を抱えるグアダルーペ小学校の前には、バイクやジプニー（乗り合いバス）などがひっきりなしに通っている「カオス状態」な道路がありました。しかし、驚いたことに、子供たちだけでその道路を横断していきます。車の間をヒョイヒョイト抜けながら。もちろん、交通指導員さんや安全指導の先生もいません。その学校の先生に「この道、危なくないですか？」と聞くと、「何がですか？」というような不思議な顔をされ「これまでも、事故は起きていないですよ。」と答えられました。きっと、日本なら、毎日子供たちが事故に遭ってしまうか、または、子供だけでは一日渡ることができないかもしれない道路を、当たり前のように渡ってゆくフィリピンの子供たち。ある意味では「フィリピンの子供たちの方が何倍も「生きる力」があるかもしれない」と思いました。

道路の様子は、学校 HP「日記のページ」に掲載してあります。
https://fukiage-e-konosu.edumap.jp/school-blog

私たち大人は、子供たちが悲しい思いをしないようにと、ついつい先回りし過ぎて、「貴重な子供たちの学ぶ機会」を奪ってしまうこともあるようです。特に、今の学校は、安全配慮義務の不履行とならぬよう、転んでケガして学ぶことよりも、常に転ばないようにすることを優先しがちです。

そんな時、思い出したいのが**「放牧主義」**です。ガチガチにルールや禁止事項で固めてしまう「管理主義」でなく、また、何もせずに放っておく「放任主義」でもなく、**「放牧主義」**は、大きな危険からは子供たちを守るセーフティネットをはった、ある程度自由に動ける中で、多少の失敗やけがは必要な体験として想定内に捉えて子供たちに学ばせていく考え方です。児童一人一台の学習者用端末の活用においても、このスタンスでいることで必要な学びができると思われます。

既に現代もそうですが、子供たちが大人になった時の社会は、今よりもさらに変化の激しい時代となっていることでしょう。そんな社会に力強く適応し、たくましく生きていくために必要な力を、子供たちにはしっかりとつけてまいりたいと思います。